

直方ミニバスケットボールクラブだより



強く、たくましく、そして、しなやかに（お別れ会にて）

竹にはなぜ「節」があるのか。竹は中が空洞で、そのまま伸びると弱く、すぐ折れたり倒れたりするので、それを防ぐために自ら節をつくることによって強く、たくましく、そしてしなやかに体にするそうです。人間の成長も同じで、たくさんの経験を通して、いくつもの節目をつくりながら、強く、たくましく、そして、しなやかに育っていきます。次の節目に至るまで、途中で投げ出したり、あきらめたりして、うまく節目をつくれないうま背丈だけが伸びると弱い心体になってしまいます。何かあればすぐに折れたり倒れたりしてしまいます。しなやかに自ら立ち直る力を「レジリエンス」と言います。その力が蓄えられていないと、ちょっとしたつまづきが大きなものになったり、長引いたりしてしまうことがあります。

竹の節は全部で60ほどできるそうで、タケノコから竹に成長するところの節は狭くより強くなるようにしているそうです。乳幼児期から子ども時代の重要性をあらわしています。中ほどは最も成長の幅、つまり節から節の幅が広いそうで、人間で言えば学生時代から青年期、成人期にあたり、ぐんぐん伸びていく時期です。6年生のこれからを象徴しています。今回つくった一つの貴重な節目が、これからの成長に生きることを確信しています。

節目を一つつくるためには、たくさんの失敗と成功が必要で、その豊かな体験が、貴重な節目をつくり出します。

毎年のことではありますが、今年度も1年を通していくつものトラブルを乗り越えて今日があります。年が明けてからも、ぎりぎりまで子どもたちの活動はトラブル続きで、その一つ一つのことに対応しながらの活動でした。大会が近づくなかで、試合に向けた練習が気になるところでしたが、日常生活のなかで判断ミスをして失敗していることを放置したままバスケットに、プレーに集中することはできません。一つ一つの問題に向き合い、課題を明らかにし、自身の行動の失敗に気づかせ、それを受けとめさせることからしか、次の一步を踏み出すことはできません。なので、ぎりぎりまで日々の問題に向き合いながらの活動の日々でした。

バスケットはチームスポーツです。他者との関係を築きながらつくりあげていくのが「チームになる」ということですから、個人が起こした誤った行動は個人の中にとどまることはなく、必ずチームに影響します。このことに向き合わなければ、チームになることはできません。

以下は、2月になってから、子どもたちに示したメッセージです。

・・・・・・・・・・自分の“弱さ”に負けるな！ 自分に勝て！・・・・・・・・・・

失敗は誰にでもある。

失敗しない人など一人もいない。人は必ず失敗をする。

バスケットで言えば、負けないチームはない。

人は、失敗した時にこそ、その人の本当の強さ（価値）が見える。

バスケットで言えば、負け試合にこそ、その選手、チームの本当の強さ（価値）が見える。

大切なことは、失敗した後のその人の行動。負けた後のその選手、チーム活動。

「成功」「勝ち」は、誰でも喜んで受け入れられる。
しかし、「失敗」「負け」は、とてつらくて、くやしくて受け入れにくい。
それでも、自分の“弱さ”に負けず、「失敗」「負け」を誠実に受けとめ、
深く反省した上で、また次のチャレンジ向かう人（選手）は本当に強い。
その人こそ魅力的で、多くの人（選手）の信頼を得る。
自分の“弱さ”に負けなければ、「失敗」「負け」には、「成功」「勝ち」以上に、学ぶことがある。
その人、その選手、そのチームを、大きく成長させるものがある。

大切なことは、自分の“弱さ”も受け入れて、その“弱さ”と闘うこと。
そして、その自分の“弱さ”に負けないこと。
その願いから生まれた直方クラブのモットーが、“自分に勝て”

.....

バスケットであろうが、ほかのことであろうが、なりたい自分になるためには、チャレンジしないことにはなれません。チャレンジしなければ、失敗もないかわりに成功もありません。というより、実は、チャレンジしないことが、大きな失敗になっています。本当の失敗は、チャレンジしないことです。チャレンジしないから失敗もしてないというのは、自分を成長させる機会を失っているということで、そのことが大きな失敗になっています。失敗せずに成長することなどありません。チャレンジしたうえでの失敗は失敗ではありません。それは成功へのアプローチです。失敗を恐れて、プレー（行動）しないという大きな失敗をすでにしているのです。

教育現場でもよく成功体験の重要性が言われますが、成功体験の裏には失敗体験があることを併せて言わなければなりません。成功体験ばかりを積み重ねておとなになっている人なんていません。今はおとなになっている私たちも、ふりかえってみればそうですし、いまだ失敗と反省を繰り返しながら歳を重ねています。子どもはなおさらです。「失敗は成功のもと」「失敗は成功の糧（カテ）」です。

